

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02579

研究課題名(和文) 現代日本語における漢字の字体・字形の実態とその背景に関する調査研究

研究課題名(英文) Study on kanji jitai and jikei in contemporary Japanese and its background

研究代表者

笹原 宏之 (SASAHARA, Hiroyuki)

早稲田大学・社会科学総合学術院・教授

研究者番号：80269505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：字体・字形の実態と使用者・受容者の意識を明らかにし、それらの背景を捕捉した。改定された内閣告示・訓令「常用漢字表」やマスメディアにおける各種の用字・表記に関する規則、辞書類との関係や影響も記述した。字体・字形という概念について具体例を当てはめて分類と整理を行うとともに、政治的、経済的、物理的、生理的、心理的、言語的条件など種々の要因のために問題の起こりやすい字体・字形とその性質についても考察し、今後の日本語を表記するための漢字の在り方について検討した。

研究成果の概要(英文)： To clarify the actual situation and the user-recipient awareness of the jitai, jikei and their background, I described the strength and weakness and mutual influence of the relationship with the "joyo kanji", the rules in the mass media, the rules concerning scripts and dictionaries.

I classified and organized while applying concrete examples to the concept of jitai and jikei. At the same time, due to various factors such as political conditions, economic conditions, physical conditions and physiological conditions, psychological conditions, linguistic conditions, I also considered the problematic jitai and jikei and their nature. I investigated about the way of kanji for writing future Japanese.

研究分野：日本語学

キーワード：漢字 字体 字形 手書き 書体

1. 研究開始当初の背景

日本語を表記するための漢字の字体・字形に関しては、種々の問題が顕在化している。「常用漢字表」は2010年の内閣告示・訓令による改定により字体上の不整合を発生させた。文化審議会国語分科会漢字小委員会において、2014年度より常用漢字の字体・字形に関する検討と見直しが開始された。それらには、字体・字形に対する解釈に幅があり、また許容という概念の混乱があるほか、文字コードの度重なる改訂の経緯などが複雑に反映している。

応募者はかねてより日本語の文字、とりわけ漢字にかかわる種々の実態について通時的、共時的な観点から探究する調査を実施してきた。一般社会において、見るための文字として発展してきた明朝体を主とする活字と、書くための文字として展開してきた楷書体の手書き文字との間に、無理に一致させようとする事による混乱が生じている。戸籍事務や銀行などの窓口業務で手書き字形への硬直的な対応のような公的な場面から、小学校以降行われる漢字の指導と書き取り試験等における採点基準に不規則な揺れを呈する教育現場、さらに一般社会における人々の日常の文字生活の各場面にまで及んでいる。日本語の漢字字体の多様性は、世界でも稀な複雑な状況を生み出している。

大半の漢字が複数の字体を有し、字種ごとに字体を異にする字を異体字とよぶ。手書きの字体においては、個人差はもちろん、年代差、集団差、さらには性差、地域差さえも見出せ、姓名、地名などの固有名詞の字体や、いわゆる誤字体など正誤にかかわる問題に及ぶ。そこには、わずかな字形差までが意味を持つものとして取り扱われるケースが見られる。

2010年に常用漢字に追加された字種な

どにおいては例外的な字体が見受けられる。2000年に旧国語審議会によって答申された「表外漢字字体表」、法務省の「人名用漢字」、経済産業省の「JIS漢字」の間でも種々の差異が残されており、表外字においても字体・字形上の混乱は収束してはいない。すでに異体字の史的展開や実情、使用者の心理に関し、調査結果を公表してきたが、字体の揺れの現実と原因については、きわめて多くの要因が関連しており、その原因は多様な複合を起こしているが、先行研究は僅かしかない。「朝日字体」も「表外漢字字体表」の「印刷標準字体」に、「辻」以外はすべて合わせるという方針転換がなされたが、社の表記規則と実際の個々の記事とで齟齬も現れる。

他領域における字体・字形研究も、なお対象や条件に限定性が高く十分な結論を得た段階にあるとはいえない。大規模な実例の収集も類型化がなされる機会も乏しい研究状況において日本語の文字・表記に関する積年の課題、さらに現代社会の直面する問題に対応するものである。

2. 研究の目的

当研究は、漢字がいかなる字体・字形によって使用されているのかという実態と、その字体・字形上に揺れを生じさせる原因を明らかにすることを目的とする。抽象化された概念である字体と具体的な出現形である字形という用語の定義について検討を加え、「常用漢字表」の改定を経た現在、日本の紙面、画面などに存在する印刷・表示された活字と手書き文字を使用する媒体において用いられている漢字に対して、字体・字形の各レベルで検討を行う。さらに漢字の字体・字形を使用する上での揺れの原因、意識、効果、問題や摩擦の起こりにくい字体・字形についても考察する。

3. 研究の方法

字体・字形に関する先行研究を収集、整理し、用語の概念規定を明確化する。それと併行して、新聞、インターネット、手書き媒体などに現れる字体・字形の実態を調査し、情報媒体間において使用される漢字の字体・字形の共通点と相違点とを確認する。

それらの実例について、当該メディアの定めた表記規則、読み取りやすさへの配慮の有無、情報機器に装備されたフォントや筆記機材による物理的な制約条件、字体・字形の産出時における生理的な制約条件など、その字体・字形が生み出された背景にある要素について、分析、考察する。ある字体・字形を産出する各種のプロセスに存在する原因について探究する。

それと併行して、伝統的な字体の影響を考察する。字体・字形の使用・選択時における意識や読み取り時に感じ取られている表現効果などを捕捉するため、文字使用者への意見聴取、聞き取り調査も実施する。

また、日本語を表記する漢字の字体・字形について、改定された「常用漢字表」やマスメディアにおける各種の規則・ルール、さらに辞書類などとの関わりについても、分析を加える。

そして問題の起こりやすい字体・字形と、その性質についても検討する。そして、解明された諸点に基づき、今後の日本語を表記するための漢字の在り方についての考察を行う。

4. 研究成果

実施してきた種々の情報メディアにおける言語資料や、国語辞書・漢和辞典、用字・用語集・書体字典のたぐいに対する検討、そして専門家や使用者などへの

意見聴取、聞き取り調査などによって、字体・字形に関する実態と使用者・受容者の意識、それらの背景を解明した。

2010年に改定された内閣告示・訓令「常用漢字表」や、新聞・放送などマスメディアにおける各種の表記に関する規則・用字についてのルール、さらに辞書などとの関わりについても、多角的に分析を加えた。

字体・字形という概念について具体例を当てはめ、分類・整理を行った。それとともに政治的条件、経済的条件、物理的条件や生理的条件、心理的条件、言語的条件など種々の因子のために問題の起こりやすい字体・字形と、その性質についても改めて検討を行った。そして、上記の種々の検討を通して解明された諸々の点に基づき、今後の日本語を表記するための漢字の在り方についても考察を行った。

それらの主な点、重要な原理や事象などについて学界だけでなく、一般社会などへの提言を含む研究成果を論著や口頭発表などによって広く公表し、学問研究の向上を図るとともに、研究成果を社会に還元し、文字使用者の日常の言語・文字生活の向上に対し寄与することに努めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

1

笹原宏之

「龍」の象形文字のその後 上・下

墨

249, 250

無

2017, 2018

128-133, 154-160

2

笹原宏之

上代の日本製漢字の製作と使用 - その前
史と展開 -
口訣研究
3 9
有
2 0 1 7
43-87

3
笹原宏之
文字の多様化
ことばと文字
8
無
2 0 1 7
47-81

4
笹原宏之
国字(日本製漢字)と誤認されてきた唐代
の漢字
東アジア言語接触の研究
無
1
2 0 1 6
1-39

5
笹原宏之
会意によらない一つの国字の消長 — 「
(見見上下逆)」を中心に
国語文字史の研究
無
1 5
2 0 1 6
65-83

6
笹原宏之
漢字の字体・字形と規範意識
日本語学
無
35-12
2 0 1 6
30-45

7
笹原宏之
消火栓の字体(連載)
2 0 1 5
日本語学
無
34-13
46-51

8
笹原宏之
“串”字探源 --以“串”表扞子之意为中心
中国文字研究
有

2 1
2 0 1 5
219-229

9
笹原宏之
日本対漢字的加工及其背景
長江学術
無
4 7
2 0 1 5
102-107

[学会発表](計 13 件)

1
笹原宏之
漢字学の未来を考える
日本漢字学会 記念シンポジウム(日本漢字
学会)(招待講演)
2018年3月29日
京都大学

2
笹原宏之
日本の漢字に対する理解とコミュニケーシ
ョンへの応用
第9回 APJE 総会兼研修会(スペイン日本
語教師会、国際交流基金マドリッド日本文
化センター)(招待講演)(国際学会)
2018年2月3日
マドリッド

3
笹原宏之
漢字の字体と字形
中京大学書道講演会(招待講演)
2017年12月16日
中京大学

4
笹原宏之
漢字文化に見られる重層性 - 日本の漢字
を中心に
祥明大学校・熊本県立大学学術フォーラム
底流としての異文化 その発現と発掘(招待
講演)
2017年11月25日
熊本県立大学

5
笹原宏之
新聞の漢字・表記の位相性 - 内閣告示・辞
典・教科書・学術書・ツイッターなどとの
比較 -
共同通信社 加盟社校閲・用語責任者会議
(招待講演)
2017年10月26日
東京

6

笹原宏之
漢字に見る日本人らしさ
第 16 回フランス日本語教育シンポジウム
21世紀の漢字学習・漢字教育(フランス日
本語教師会)(招待講演)(国際学会)
2017年06月17日
INALCO(パリ)

7

笹原宏之
漢字の世界
日本手話学会 2017 年度第 1 回手話学セミ
ナー(招待講演)
2017年05月07日
東京

8

笹原宏之
上代における日本製漢字の作製と使用
口訣学会(招待講演)
2017年02月01日
国立慶尚大学校(韓国)

9

笹原宏之
上代の字体入門
上代文学会(招待講演)
2016年08月25日
早稲田大学

10

笹原宏之
漢字の形 ~漢字をどう書くか~
(公益財団法人)日本漢字能力検定協会「漢
字の面白さ、懐の深さ」(招待講演)
2016年08月10日
東京

11

笹原宏之
医学用語の難しさ -漢字・日本語研究から
見た医学用語
日本医学会(招待講演)
2016年06月16日
日本医師会館

12

笹原宏之
「常用漢字表」が定める字体と字形
J S L 漢字学習研究会
2016年02月20日
早稲田大学

13

笹原宏之
一个日制漢字的興衰 - - 以“見見”為中心
中国文字学会(国際学会)
2015.8.22
中国人民大学

〔図書〕(計 4 件)

1

笹原宏之
謎の漢字
2017
1-226

2

笹原宏之
池田雅之編
成文堂
祈りと再生のコスモロジー - 比較基層文
化論序説 - (祈りの文字化)
2016
339-372

3

笹原宏之
週刊金曜日
漢字と社会
2016
Kindle

4

笹原宏之
集英社インターナショナル
日本人と漢字
2015
1-175

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

笹原宏之(SASAHARA, Hi royuki)

早稲田大学 社会科学総合学院 教授
研究者番号：80269505

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()